

「世界中で知られている「サムライ」という美的人間の代表でもある河井継之助を背筋を伸ばし、気持ちを引きしめて撮影に臨みたいと思います。」



河井継之助 役 役所広司さん

「継之助さんの夢の邪魔をせぬよう、役所さんの足を引っ張らぬよう、先輩方から学べることに感謝しながらつとめさせていただきます。」



妻。おすが役 松たか子さん

公開は2020年 豪華出演者

長岡藩家老・河井継之助を主人公にし、累計発行部数284万部を超える司馬遼太郎さんの名著「峠」の映画化が決定しました。タイトルは「峠 最後のサムライ」です。

継之助役には役所広司さん。7年前の映画「聯合艦隊司令長官 山本五十六」に続き、長岡の偉人を演じます。そして、継之助の妻・おすが役に松たか子さん、先代藩主・牧野忠恭役に仲代達矢さんなど、

豪華キャストが集まりました。メガホンを取るのには、黒澤明監督の助監督として数々の名作に携わり、初監督作品「雨あがる」で日本アカデミー賞最優秀作品賞を受賞した小泉堯史監督です。

長岡開府400年、戊辰戦争150年、河井継之助没後150年の節目を迎え、最後のサムライと称される継之助に注目が集まります。撮影は、9月から長岡市を中心に各地でスタート。2020年の公開に向け、市もPRなどで協力していきます。

市民から 喜びの声

河井継之助記念館友の会
会長・下田邦夫さん

今年「峠」の発行から50年でもあり、映画化のニュースは大変喜んでいきます。友の会は、講演やゆかりの地との交流を通じて継之助の魅力を発信しています。会員約600人の内、3分の1が県外の人で、全国的にも多くのファンがいると感じます。

継之助は志を高く持ち、正しい事は正しいと最後まで筋を通し、一生懸命生き抜いた人だと思います。映画ではどのように描かれるか楽しみです。映画は、長岡、そして全国の人が継之助の生き方を改めて知ってもらえるきっかけにもなると思います。



河井継之助を映画化

「峠 最後のサムライ」

「監督されることになった経緯や継之助への想いを教えてください。」

司馬遼太郎さんの「峠」は新聞連載時読んでいて、継之助とはどういう人なのか以前から興味を持っていました。いつか映画にしたいという想いがあり、今回実現しました。

僕は好きな人しか描かないんです。美しい生き方をしているなと思えたり、自分の心に爽やかな風を吹かせてくれたり、そういう人物をスクリーンの中に立ち上げたい。映画では、この人に出会えたという喜びを持ってもらえる継之助像になるんじゃないかと思っています。

「長岡の印象は？」

ロケハンや花火大会で訪れました。時代劇は美術が大事なのですが、長岡は旧家が残っている。そうした本物の中で俳優さんがどういふ芝居をするか楽しみです。また、映画に協力してくれる情熱を持った人と出会えたことも大きかったです。

「豪華なキャストが集まりました。」

キャストは理想に近いです。役所広司さんに「峠」の企画を話したら「ぜひやりましょう」と熱く言って



小泉堯史 (こいずみ たかし) 黒澤明監督に師事し、28年間に渡り助監督を務める。「雨あがる」(00)、「博士の愛した数式」(06)、「鯛ノ記」(14)などを監督。9月公開「散り椿」では脚本を務めた。

継之助の世界に参加しよう! エキストラ募集

10月から11月の間に、市内・県内各地で行う撮影のエキストラを募集します。

長岡ロケなびのホームページ <http://locanavi.jp/member/supporter/> からサポーター会員の登録をしてください。詳細は随時ご案内します。

長岡ロケなび (長岡観光コンベンション協会内) <http://www.naga-kan.com/>
 ☎ 32・1187
 ※そのほか市内撮影の映画・ドラマのエキストラも募集中です。



本物そっくりの衣装、小物を身に付けます



関観光企画課 ☎ 39・2344